

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和7年3月

1 喜界町の早熟かぼちゃ現地検討会の開催

3月10日に喜界町営農支援センターで、早熟かぼちゃ現地検討会を開催しました。農政普及課では今年度、関係機関や生産者リーダーと連携して「かぼちゃ栽培の管理マニュアル（喜界島版）」を作成し、今回の現地検討会で、かぼちゃ栽培者に配布しました。本マニュアルは管理作業の基本的なポイントを写真等で示しており、今後は栽培講習会や現地検討会、新規栽培者への研修等で活用し、かぼちゃ産地の拡大に向けて取り組んでいきます。

2 肉用牛農家の技術経営コンサルティングを実施

3月10日と11日に喜界町で農業簿記研修会に参加した肉用牛農家5戸を対象に過去5年間の経営と繁殖技術診断結果の推移を分析し、その分析結果を基に役場担当者と連携して戸別コンサルティングを実施しました。一戸あたり約2時間のコンサルティングで各農家の技術と経営に対する考え方や取組状況を把握すると共に、多くの気づきを農家及び関係機関と共有することができました。今回得られた内容を精査し、肉用牛農家の経営発展につなげるよう活用していきます。



肉用牛農家技術経営コンサルティング

3 みどりの食料システム戦略に対応した施肥体系を検討！

3月12日にさとうきびの「みどりの食料システム戦略に対応した施肥体系」の現地検討会を喜界町で開催し、実証ほ協力農家や関係機関等が参加しました。実証ほは2024年新植夏植えで設置し、基肥を堆肥入り肥料（堆肥10%）に置き換えました。これまでに2回実施した生育調査の結果を基に検討が行われ、協力農家からは「慣行肥料との差は感じない」との声が出ました。今後も生育調査や収量、品質調査等を行い、施肥体系の検討を行っていきます。



みどり戦略実証ほ検討会

4 喜界町ゴマ生産振興協議会が振興策の検討

3月17日に喜界町ゴマ生産振興協議会の第4回検討会が喜界町役場で開催されました。令和6年度の出荷状況は台風10号等の影響で、島全体の出荷量が8,685kgと前年の半分程度になったという報告がありました。次年度は、茶・薬用作物等地域特産作物体制強化対策事業を活用して、台風被害を軽減するために、8月上中旬に収穫できる早生系の系統選抜に取り組み、省力化に向けた機械等の導入については協議会の中で検討を重ねていくこととなりました。